

レディースファームスクール20年 ・・・動き出した『シントクアユミルク』 ～農地と人を未来へ繋ぐ担い手確保の取組～

平成28年4月の稼働開始を目指し、酪農の研修施設としての役割を併せ持つJA出資型酪農法人の「株シントクアユミルク」の建設がスタートしています。

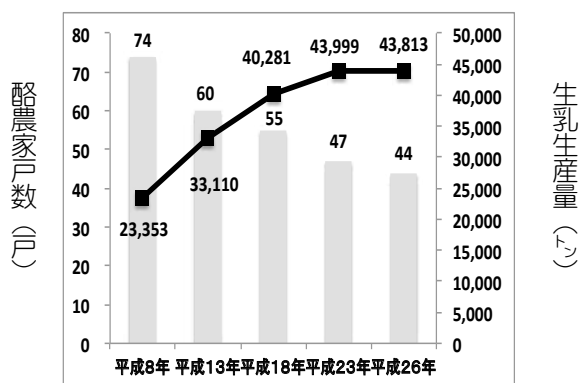
現在、建設中の研修農場の概要も含め、農業担い手確保に向けた取り組みをお知らせします。

酪農業の現況

北海道の農業人口は毎年600人前後の新規就農者がいるものの、平成7年から平成27年までの約20年間で30万人から15万人と急激に減少しています。

本町においても例外ではなく、平成8年に農家戸数198戸だったのが、平成26年には12戸と、およそ20年間で70戸以上減少しており、そのうち酪農家は30戸減少しています。

一方、農家戸数の減少と反比例するように生乳生産量においては、大規模酪農法人の拡大・TMRセンター※1、コントラクター※2、哺育期、育成期の牛を預かる町営牧場などの分業体制の充実から順調に生産を伸ばしてきました。



(出荷状況調査、新得町農業より)

※1 飼料供給施設＝本来、個別で行っていた飼料生産・調製作業を一括してこのセンターで行う。それによって農家は乳牛の飼養管理・繁殖管理に専念して効率的で高いレベルの技術を駆使することができると。

※2 農作業受託組織＝規模拡大をして頭数を増やすことで飼養管理に手が取られ、飼料を収穫することや、畑を耕すことが難しくなる。農家各戸での飼養管理を充実させるため、飼料の収穫などをこの組織で請け負う。

平成8年から継続している担い手確保の取り組み

担い手確保の取り組みの一つとして「町立レディースファームスクール」が平成8年に開校され、今年で20周年を迎えました。

同スクールは、農業従事者の高齢化、後継者不足などの農業を取り巻く課題を解決する一手として、全国に先駆けて開設した「女性専用研修施設」です。プライバシーの確保など、女性が安心して研修を受けられる環境が整っています。

レディースファームスクールが本町に与えた効果

①農業担い手の確保
この20年間で、16名の長期研修生が修了。現在は41名が町内に在住し、うち28名が農業に従事しています。

町を離れた研修生も「新得町農業の応援団」として、農業をはじめ各分野で活躍しています。

②受入農家の経営強化

研修生を受け入れることによるマンパワーの増加により、搾乳牛の増頭が行え、生乳生産量が増加し、経営強化に大きく貢献しています。

③受入農家の意識改革

受入農家では、研修生が入ることにより住宅や牛舎周りの環境整備や作業時間の効率化が図られています。

しかし、ここ数年、生乳生産量は約44,000トンを停滞しつつあり、地域をけん引してきた大規模酪農法人では、農地の不足、労働力確保が大きな問題になっています。

また、生産資材や燃料価格の高騰による所得の低下、TPP問題による将来への不安などにより、生産規模拡大については個人・法人問わず、踏み切ることができていない現状があります。

今後においても、高齢・後継者不在などの理由により離農が想定されます。先に述べたTMRセンターやコントラクターなどの生産支援組織は、利用している農家戸数が減ることによって維持運営が困難となり、各農家の負担が増加することになります。

地域ぐるみで未来に向かって

担い手・人材不足の問題により、全道ではさまざまな人材確保・育成の取り組みが行われています。

新得町では、他の酪農地帯のような酪農戸数の急速な減少は比較的小ないものの、減少傾向は続いており、地域に与える影響は多大了です。生産基盤の維持・拡大を図るためには、地域が求める人材を育成する必要があります。

④地域の活性化

研修生は積極的に地域や町のイベントに参加し、その中で町民との交流を深め、地域振興の起爆剤にもなっており、地域活性化にも一役買っています。

「酪農業をやめてしまっていたかも」

「スクールが始まる前から農業実習生を受け入れていたが、プライベートや宿泊場所の確保が難しく悩んでいた。そんな時、スクール開設の話がありすぐに賛同した。修了生は町に多く残ってくれているし、それ自体が町への効果、後継者不足の解消にも役立っている。結果的に修了生がいなければ酪農業をやめてしまっていたかも」と受入農家で組織する協議会の太田義正会長は話します。



レディースファームスクール協議会 会長 太田義正さん

「スクールがあることがキーポイント」

スクールがあるから若い女性を受け入れることができ、スクールの肩書きがあるから研修生も親切にしてくれると思う」と話すのは15期修了生で屈足の畑作農家

新規就農者を生み出すには、条件、タイミング、就農者のスキルなどにより数年の時間を要することからも、JA新得町としても研修農場を設置することにより、営農意欲のある新規就農希望者、酪農に興味のある人材を確保し、育成していくことで地域農業全体の底上げを目指していくこととしました。

「農家戸数の減少やそこからくる生産力の低下、酪農に関わる人材の不足などの問題で『これからどうしよう』ということになってしまつ前に、今取り組みを開始し、地域総ぐるみで今後厳しくなると予想される農業情勢でも勝ち抜いていける強い農業地域にしていくな必要がある」とシントクアユミルク取締役牧場長の北村一哉さん話します。



株式会社 シントクアユミルク 取締役牧場長 北村一哉さん

後継者と結婚した村田倫子さん。現在、研修生の受け入れも行っていますが「受け入れる側もいい刺激」と与えられるものも多いようです。



レディースファームスクール 第15期修了生 村田倫子さん

「人材の確保は最大のポイントの一つ」

「酪農に限らずあらゆる分野で労働力が慢性的に不足している。その中で人材の確保は将来をつくる最大のポイントの一つだと思う。新しく農業を始めたいと考えている人、農業に関係する仕事に就きたいと考えている人に、この地域を選んでもらい、そしてここで夢を叶えてもらう。そういったことがこの地域にある諸問題を一つでも解決の方向に導いてくれば」と北村牧場長は「アユミルク」からわが町の農業発展を後押ししたいと意欲を見せます。

お問い合わせ

レディースファームスクールについては、町産業課農政係（6410525）、シントクアユミルクについては、農協酪農課（6415695）までお気軽にお問い合わせください。

「(株)シントクアユミルク」の概要

名 称	農業生産法人 (株)シントクアユミルク
従 業 員	7名（うち研修生3名）
飼養頭数	経産牛 500 頭
総事業費	約 17.5 億円
町の支援	搾乳牛導入資金貸付 3 億円 (貸付条件：利率1%（貸付後5年間無利子） 償還期間：13年（うち据置3年以内）)

- ①研修牧場としての役割（地域農業の担い手の育成）
新規就農（経営者）や従業員など幅広い人材を育成するため、現場での作業を通じてノウハウを提供。
- ②最先端技術（搾乳ロボット）普及の役割（地域農業経営基盤の強化）
搾乳ロボットを導入することにより、自動化技術の実践・実証を行い、地域の収益性向上のための選択肢を示す。
- ③生乳生産、生産力強化の役割（地域農業の維持）
地域の総出荷乳量の停滞を打開するため、年間5000トンの生乳を出荷